

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

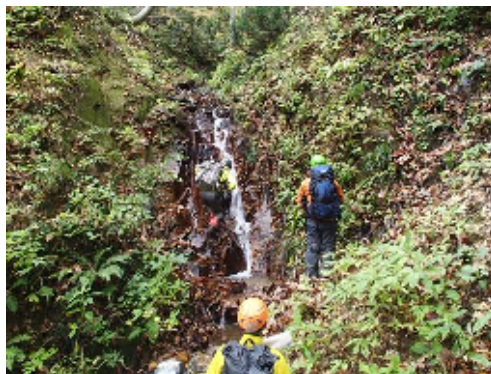
## 国立登山研修所「安全登山指導者中央研修会」から

11月2日～4日、国立登山研修所で本年度第2回目の標記研修会が行われた。私は、今回も講師として高校の先生方を中心にした研修生の皆さんと一緒に読図を勉強してきた。この研修会自体は、2009年に研修所が文科省から独立行政法人に移行した際に「登攀や縦走における安全登山のリーダーを目指す」ことを主眼に設定された研修会である。最初の年は1泊2日という極めて限定された日程でもあり、加えて私自身もどんな形で研修会を組み立てるかということがもう一つ明確でなかったこともあり、とまどいの中、試行錯誤で講師を務めるという状況であった。しかし、その後4年間、経年的に講師を担当させていただく中で、少しずつ私のスキルもアップしてきたのは自分自身でも感ずるところである。講師は概ね2人一組で6人から8人程度の研修生にあたるのだが、今回私は立山ガイド協会の佐伯岩雄さんと組ませていただき、高校の先生方5名（宮城2名、福島1名、岐阜1名、京都1名）と社会人山岳会のリーダー3名の8名からなる班の担当をした。

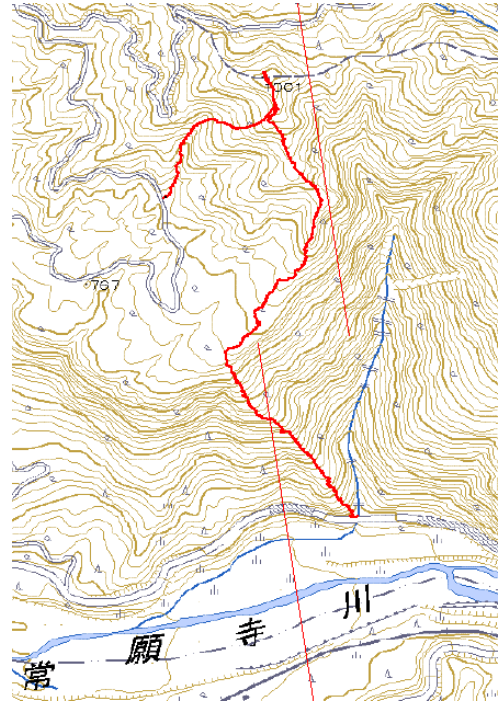
研修は初日、元登山研修所専門職の小林亘さんによる読図の基礎講義を受けた後、班の中で課題を出し合って2日目のルートを検討、研究をした。今回の私の班の研修生のみなさんが設定したルートは研修所の北にある長尾山をフィールドに「沢を詰め、途中から尾根にとりついて

1001mのピーク（長尾山）まで登り、その後は、想定した尾根を外さないように県道まで下る」というもの。もちろん登山道は一切ない。その区間で注意すべきポイントの洗い出し、特徴ある地点の検討、未知なる場所へ踏み込むが故の装備として何が必要か、コンパスはどう扱うかなどを夜遅くまで互いに出し合うことで、計画を立てた。実際、今回の想定ルートの大半は僕も佐伯さんも全くはじめて踏み込む場所である。後半の急斜面の尾根の下りではロープの使用も想定した。

2日目は1日かけて自分たちで想定したコースを辿りながら、コンパスの使い方と地図読みをみっちり行った。次ページに掲げた地図が実際に読図をしながら歩いたコース



のGPSのログである。途中数カ所ルートミスをしそうな箇所があったが、その都度コンパスと地形図を詳細に読み修正をし、基本的には計画を立てたコースをほぼトレースすることができた。途中には地熱があるのか、熱気が湧いている深い穴もあったりして、未知のルートは研修を離れた部分での探検的な要素もあり研修生にとってはもちろん、僕にとっても面白いものだった。沢の登りにおいては、地図にない滝（前ページ写真）や地図には現れない小さな沢の存在、見通しの利かない尾根を下るときの現地同定の困難さや地図に現れない小ピークや凹地の出現、そしてこれらが地形図に表現はされていないものの、よく読み込めばその存在が類推できることなど、単にコンパスの使い方のノウハウだけにとどまらないなにかがしかのものを研修生の皆さんには持ち帰ってもらえたと考えている。780m地点からの最後の尾根の下りでは、実際には使う場面はなかったが、ロープを持って行くこととそれを使うことのできるリーダーがいることの安心感なども感じていただくことができた。これは我々が生徒を引率する際にも極めて重要な観点だ。それが最終日のロープワークの研修へと発展した。2日目の夜は、班の皆さんの発案で講師二人も一緒に少し懇親を深める機会を設けた。他県の高校現場の様子などを聞くことができたのも有意義だった。



最終3日目はさらにコンパスワークに精通するためのホワイトアウトナビゲーションの練習をしながら、ロープを使った危険箇所の通過方法を研修した。最初は1泊2泊だった研修会、今は1日増えたとはいえ、それでもできることは限られている。研修内容は読図を中心としつつも、研修生のニーズを感じ取りながら総合的な登山技術を高めてほしいということで組み立てているが、山の技術にこれで終わりというものはない。今回研修された先生方にも現場に戻って、ここで得た刺激を持続しさらに高みを目指しながら、生徒に還元してくださることを強く願っている。それが、この研修会が「安全登山指導者中央研修会」と「中央」を謳っている謂いでもある。

なお、今回は、通常の研修班とは別に読図の第一人者の静岡大学村越真先生が「GPSを用いた読図指導法についてのカリキュラム」を確立するために特別に1班を指導され、それを実践された。次年度以降の展開が期待される。

以下、参加された皆さんの感想から \*コンパスの重要性を改めて感じた。安全登山についての考え方や装備など普段気づいていないことを知ることができた。 \*今まで曖昧だった地図とコンパスの関係がよく理解できた。 \*なんとなく生徒に指導していたことが、これからは根拠をもってできるようになった。ロープワークははじめて経験したが、おもしろかった。 \*自分は今まで安全登山という点では知識も技術も足りなかった。運がよかっただけということを知った。 \*高いレベル=ロープではなく、安全のための技術だということがわかった。 \*自分の弱点が見えた。目標を高くもちこれからも地図をもって山に入りたい。 \*事前準備がいかに大切か改めて理解できた。